

幼児の協同性の向上を図るための援助の工夫

—「幼児の協同性が育まれる過程と枠組み」の活用を通して—

広島市立大町幼稚園教諭 三宅 瑞穂

研究の要約

本研究は、幼児の協同性の向上を図るために、幼児の協同性を捉える視点を整理し、育ちの過程を踏まえた援助について探っていくことを目的としたものである。岡上(2014)は、幼児の協同性を育む指導を考える上で、教師が協同性を捉える視点を明確にすることが不可欠であると述べ、「協同性の枠組み」を作成している。

そこで、幼児の協同性が育まれる過程を捉えるため、「協同性の枠組み」を整理し、『協同性の枠組み』確認シート、「幼児の協同性が育まれる過程と枠組み」を作成し、この活用によって幼児の協同性の向上を図ることができたかについて実践を通して分析、考察を行った。

その結果、『協同性の枠組み』確認シート、「幼児の協同性が育まれる過程と枠組み」を活用すると、教師の幼児を捉える視点が定まり、幼児の育ちの過程を総合的に捉えることができた。このことにより、教師は幼児の育ちの過程を踏まえた援助ができ、幼児の協同性の向上を図ることができた。

キーワード：協同性、協同性を捉える視点、育ちの過程、適切な援助、
「幼児の協同性が育まれる過程と枠組み」

I 問題の所在

近年、少子化や都市化等の進行により、子どもを取り巻く環境において、同年齢や地域の集団が形成されにくい現状がある。このことから、「幼稚園教育要領」の改訂では、幼児期から様々な集団との多様なかかわりの中で協同性を育むことが教育課題の一つとされている。

また、「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」では、幼児期と児童期が共通して抱える課題として、「他者とのかかわりが苦手である、自制心や耐性、規範意識が十分に育っていない」¹⁾ことが指摘され、解決のための取組を進めるに当たって、各幼稚園において、幼児の協同性の育ち等の状況を踏まえてねらいをもって指導に取り組むことを、人とのかかわりにおける指導の留意点として示している。

同じく「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」では、各幼稚園においては、「幼児の発達等の状況を踏まえて、幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿をイメージしつつ、豊かな教育活動が展開されるよう工夫してほしい。」²⁾と示し、幼児期の姿をイメージした上で、取組を進めていくことを求めている。

このような現状から、「幼児教育に関する調査研究拠点の整備に向けて（報告書）」では、幼児教育を通じて幼児が身に付けた力について、「一律に数値化して評価することはなじまないが、一方で、幼児教育の成果を測るために一定の数値指標を活用することは重要な課題である」³⁾と述べ、幼児がどのような力を身に付けたのかを測るための適切な手法を検討することが必要であるとしている。

所属園においては、友達と一緒にいるが自らの働きかけがあまりない、他者の提案に受身的である、遊びを転々としているなど、友達に思ったことを伝えてかかわることや、友達とイメージや目的を共有して遊びを進めることが苦

手な幼児が増えている。

これらの状況を踏まえて、自身は、これまでも幼児に協同性が育まれるような保育の展開を心掛けてきた。しかし、自身の援助は、幼児が友達と共通の目的をもつことができるような状況づくりに留まり、個々の育ちの状況を踏まえた援助により協同性を育てていく視点は不足していた。

また、他の教師との保育実践の振り返りにおける幼児の分析場面では、教師によって幼児の捉えに違いがあることで、育ちの状況を共有する難しさが生じている。そのために、幼児に適した援助の改善に十分に反映できていないと考えられる。

以上のことから、幼児の協同性の育ちの状況を踏まえるための指標が必要だと感じている。

そこで、本研究では、幼児の協同性を育むために、「幼児の協同性が育まれる過程と枠組み」を作成・活用して、教師の援助の工夫について研究することとした。

II 研究の目的

幼児の協同性について「幼児の協同性が育まれる過程と枠組み」を作成・活用し、幼児の協同性の育ちの過程を踏まえた援助を行うことで協同性の向上を図ることを目的とする。

III 研究の方法

- 1 研究主題に関する基礎的研究
- 2 研究仮説の設定及び検証の視点と方法
- 3 検証保育の計画と実施
- 4 保育実践の分析と考察

IV 研究の内容

1 研究主題に関する基礎的研究

(1) 協同性と協同性が育まれることについて

幼児の協同性について、国立教育政策研究所『幼児期から児童期への教育』⁴⁾では、「一緒にいることで、一人では得られない何かに集中していく気分を感じたり、他の幼児と対立したり折り合ったりしながら自分も他者も生き生きするような関係性」と示している。

『幼稚園教育要領解説』では、領域「人間関係」の内容において、「友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする。」そして、「このような経験を重ねる中で、仲の良い友達だけではなくいろいろな友達と一緒に、さらには、学級全体で協同して遊ぶことができるようになっていく」⁵⁾としている。その際の教師の援助で大切なことは「一人一人の幼児が十分に自己発揮しながら、他の幼児と多様なかかわりがもてるように」⁶⁾とある。さらに、幼児が自らの発達に必要な経験を積み重ねるためには、教師は、幼児一人一人の発達や内面の動きなどを的確に把握して、それぞれの幼児の興味や欲求を十分満足させるようにと述べられている。

岡上(2014)は、「協同性という友達とかかわる姿だけをとらえがちであるが、周囲の幼児の存在に気付くことや友達の姿に興味をもって見ることが、かかわりのきっかけとなると考えると、かかわる前の幼児の心の有り様や動きの兆しも『かかわり行動』ととらえ着目する必要がある」⁷⁾と述べ、幼児がどのように周囲に目を向け、心を動かし、協同して遊ぶ姿につながっていくのかについて明らかにしている。そして、幼児の協同性を育む指導を考える上で、教師が協同性を捉える視点を明確にすることが不可欠とし、かかわる前の幼児の心の有り様や動きに着目して、幼児の協同性を捉える四つの視点を図1のように挙げている。

さらに、幼児の心の動きや他者とかかわる姿との関連について測定し分析、考察するために、四つの視点について発達の段階を捉え、領域を設定し、その具体的な姿を項目として「協同性の枠組み」を表1のように設定している。

- | |
|--|
| ① 表情や視線を含めた幼児の「かかわり行動」 |
| ② 他者に対してどのように親しみや気後れを感じているかなどの「対人意識」 |
| ③ 課題意識やそれを実現するために必要な力量を幼児がもっているか否かという「課題意識と力量」 |
| ④ 幼児たちの対人意識、課題意識と力量を見極め、一人一人の発達に即したかかわり行動を支える「教師の援助」 |

図1 幼児の協同性を捉える四つの視点

表1 協同性の枠組み

協同性の枠組み	項目		
かかわり行動	他者への注意・関心	一人で遊んでいて周囲の幼児に関心を示さない 周囲の幼児の様子をぼんやりと眺める 周囲の幼児の様子を注視する	
	接近行動	周囲の幼児と同じことをする 周囲の幼児に触れる 周囲の幼児に向けて言葉を発する	
	同調・回避行動	相手のいいなりになる 相手と対立すると、その場から離れる 相手と対立すると、とりあえず謝る	
	一方的・対立的行動	相手を無視したり、自分を強く主張したりする 勝手に遊びに加わったり、抜いたりする 相手に強制して何かやらせる	
	対話的行動	事実を伝えようとする 自分の思いを伝えようとする 相手の話を聞こうとする	
	協調的行動	交換条件や妥協案を出して課題を解決する 相手と一緒に力を合わせて課題を達成する	
	対人意識	他者への欲求・評価	他の幼児と仲良くしようとする 他の幼児に勝とうとする 他の幼児に認められようとする 他の幼児のよさを認めようとする
		気持ちの共有	ポジティブな気持ち(楽しい、嬉しい等)を共有する ネガティブな気持ち(嫌だ、不快等)を共有する 気持ちの揺れ(迷い等)を共有する
		援助性	友達の気持ちを理解する 友達を助けようとする 友達を信頼する 友達に感謝する
		課題意識と力量	個別性
共有性	遊びのイメージを友達と共有する 遊びの目的や課題を友達と共有する 遊びのルールを友達と共有する		
発展性	遊びの中で友達と役割を分担する もっとおもしろくなるよう工夫する 問題点に気付いて修正しようとする 課題達成に向けて繰り返し取り組む		
教師の援助	情緒的支援	幼児の気持ちを受け止める 共感的に理解する 教師の素直な気持ちや感覚を表現する	
	道具的支援	環境を構成する、教材を提示する 活動の手助けをする 危機的状況に介入する	
	情動的支援	遊びや活動等がよりよくなるように提案する 確認する 情報提供をする	
	評価的支援	承認・ほめる	承認・ほめる 正誤を伝える 注意する 見守る

表2 「協同性の枠組み」確認シート

これらのことから本研究において「幼児の協同性が育まれる」とは、「幼児が育ちの過程に応じて、友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見いだし、工夫したり、協力したりするような経験を重ね、仲の良い友達だけでなくいろいろな友達と一緒に協同して遊ぶことができるようになっていくこと」と定義する。

そして、本研究では、岡上氏の「協同性の枠組み」(2頁表1)を基に、より活用しやすくするために、文献研究によって幼児の具体的な姿を加え、『協同性の枠組み』確認シートを表2のように整理した。これを用いて幼児の協同性の育ちの過程を捉えることとする。

(2) 「幼児の協同性が育まれる過程と枠組み」について

岡上(2014)は、調査研究の結果から、協同して遊ぶ姿につながると思われる姿やかかわりの兆しが表れるまでを「協同性の芽生え」、協同性が芽生えてからの変容を「協同性の維持の初期」、「協同性の維持の発展期」と三つの段階で示している。

そして、協同性を捉える四つの視点ごとにある各項目の段階については次のように述べている。「かかわり行動」については、「他者への注意・関心」「接近行動」は該当の幼児のみの行動で、相手の心情などを考慮しておらず、「協同性の芽生え」の段階としている。「同調・回避行動」「一方的・対立的行動」は周囲の人と何らかのかかわりが発生するが、他者との関係性の偏りあるいは、コミュニケーションに不調和が生じている状態で「協同性の維持の初期」、「対話的行動」「協調的行動」は、自己主張と自己抑制の調整と、周囲の人と調和の取れた相互作用が可能となる安定した「協同性の維持の発展期」と捉えている。

「対人意識」「課題意識と力量」については、質問紙調査の結果から、各項目間の相関を示し、かかわり行動を促す要因として考えている。そして、協同性は、「対人意識」の支えのもと、「課題意識と力量」の様相が、芽生えと維持の違いを特徴付けると推察している。

内容	番号	項目(岡上2014年)	幼児の具体的な姿	頁	日
他者への注意・関心	①	一人で遊んでいて周囲の幼児に関心を示さない	自分だけの遊びを楽しみ仲間に関心がない		
	②	周囲の幼児の様子をぼんやりと眺める	なんとなく他者を見て通り、不特定の他者を見る		
	③	周囲の幼児の様子を注視する	他者をじつと見て通り、特定の他者を見る。見ていて参加したつもりになる		
接近行動	①	周囲の幼児と同じことをする	一緒にいることやつながらず遊びを始める。関心を寄せる。同じ場を共有しようとする		
	②	周囲の幼児に触れる	体の動きや視線などで相手のサインを感じる		
	③	周囲の幼児に向けて言葉を発する	自分を表現する。発声する		
かかわり行動	①	相手のいいなりになる	思いを主張せず相手に合わせる。自分の本意とは違う思いで合わせる		
	②	相手と対立すると、その場から離れる	自分と違う思いに向き合うことができず、避ける		
	③	相手と対立すると、とやみ加減する	対立や衝突を避ける		
一方的・対立的行動	①	相手を無視したり、自分を強く主張したりする	思いを譲らうとする。一方的な行動をとる		
	②	相手に遊びに加わりたがり、強けたりする	こうしたいという思いが強くなり、強くなっていない。思い通りにならないとやめる		
	③	相手に強制して何かやらせる	相手に自分の要求を無理強いする		
対話的行動	①	事実を伝えようとする	見たことや聞いたことを伝える		
	②	自分の思いを伝えようとする	自分の思いや考えを話す		
	③	相手の話を聞こうとする	相手の思っていることに気づく		
協調的行動	①	交換条件や妥協案を出して問題を解決する	関係を維持するために解決案を、自分の要求と他者の要求に折り返し合いをつける		
	②	相手と一緒に力を合わせて問題を達成する	他者とより協力しあうようになる工夫をする		
他者への要求・押し	①	他の幼児と仲良くしようとする	一緒に遊ぶ楽しさを覚える		
	②	他の幼児に譲りようとする	我慢感を味わおうとする		
	③	他の幼児に頼られようとする	自分の行為・行動・存在を受け止められておもしろい。自己への気づき		
	④	他の幼児のよさを認めようとする	相手のよさを自覚する。気づく		
対人意識	①	ポジティブな気持ち(楽しい、嬉しい等)を共有する	楽しい、嬉しい、面白い、興味深い等プラスの感情を共有する		
	②	ネガティブな気持ち(嫌だ、不快等)を共有する	面白くない、嫌い、不安だ、嫌だ、怒り等マイナスの感情を共有する		
	③	気持ちの揺れ(迷いや不安)を共有する	自分とは異なる他者の気持ちを理解する。気持ちを認識しようとする		
理解性	①	友達の気持ちを理解する	相手の感情に気づき、受け止める		
	②	友達を助けようとする	思いやを示す。別なアイデアを出す。支える等相手に受け入れる態度や姿勢		
	③	友達を褒める	相手が自分の要求を満たし、プラスを与えてくれる存在となる		
	④	友達に感謝する	自分の気持ちとは異なる他者の気持ちを理解して行動する		
個別性	①	自分だけの遊びのイメージをもつ	自分の思いや関心をもっている世界を築きようとする		
	②	自分だけの遊びの目的や課題をもつ	決めてきたり、思いを実現するように工夫したりする		
	③	自分だけの遊びの楽しみ方がある	楽しみながら遊びを展開できる		
共有性	①	遊びのイメージを友達と共有する	自分の世界を相手に共有しようとする。互いのイメージが分かる		
	②	遊びの目的や課題を友達と共有する	共通の思いや目的を共有し、実現しようとする		
	③	遊びのルールを友達と共有する	ルールやせまりの必要性を感じることよさを覚える。新たなルールを考え出す		
規範性	①	遊びの中で友達と役割を分担する	自分も相手も生き生きとする関係性を築く		
	②	もつとおもしろくなるよう工夫する	思いを実現するように遊びを強制し、発展させる。アイデアを出す		
	③	問題点に気付いて修正しようとする	問題を乗り越えようとする。試行錯誤する		
	④	問題達成に向けて繰り返し取り組む	他者とやり直けようとする。目標を目指す		
情緒的支援	①	幼児の気持ちを受け止める	安心、信頼、気持ちを理解できるように寄り添う		
	②	共感的に理解する	気持ちを察し、思いを受け入れる。共に思いを乗り越える		
	③	他者の貴重な気持ちや感覚を表現する	他者の視点から見たこと、感じたことを伝える		
道具的支援	①	環境を構成する。教材を提示する	他者との交流が生まれる環境の構築。活動を実現・発展させるための材料や道具の提示		
	②	活動の手助けをする	こたわりの手助けをする。発展できるように手助けをする		
	③	危機的状況に介入する	互いの思いの話し合いを促す。衝動的な感情を止める		
情報的支援	①	遊びや活動等がよりよくなるように提案する	興に入ったイメージを用いて示す。様々な手立てがあることを示す。挑戦的な課題を示す		
	②	確認する	意図や目的、手段を確認する		
	③	情報を提供をする	子どもの情報を広げ、活動をつなげる示唆をする		
精神的支援	①	承認・ほめる	褒めていること知らせる。発展できるように励ます。できたことを認める。認める		
	②	正解を伝える	よいことと悪いことに気付かせる		
	③	注意する	人としてはいけないことを明確に示す		
	④	見守る	成長が必要とするときに必要な教師の関与やまなざし。寄り添う		

表3 幼児の協同性が育まれる過程と枠組み

幼児の協同性が育まれる過程と枠組み						
芽生え 3歳児～4歳児前半頃		維持（初期） 4歳児～5歳児前半頃		維持（発展期） 5歳児後半頃		
か か わ り 行 動	項目	①一人で遊んでいて周囲の幼児に関心を示さない ②周囲の幼児の様子をぼんやりと眺める ③周囲の幼児の様子を注視する	項目	①相手のいなくなりになる ②相手と対立すると、その場から離れる ③相手と対立すると、どりあえず断る	項目	①事実を伝えようとする ②自分の思いを伝えようとする ③相手の話を聞くとする
	接近行動	①周囲の幼児と同じことをする ②周囲の幼児に触れる ③周囲の幼児に向けて言葉を発する	一方的・対立的行動	①相手を無視したり、自分を強く主張したりする ②勝手に遊びに加わったり、抜いたりする ③相手に強制して何かやらせる	対話的行動	①交換条件や妥協案を出して課題を解決する ②相手と一緒に力を合わせて課題を達成する
	対人意識	①他の幼児と仲良くしようとする ②他の幼児に触れようとする ③他の幼児に認められようとする ④他の幼児のよさを認めようとする	対人意識	①ポジティブな気持ち（楽しい、嬉しい等）を共有する ②ネガティブな気持ち（嫌だ、不快等）を共有する ③気持ちの揺れ（迷い等）を共有する	対人意識	①友達の気持ちを理解する ②友達を助けようとする ③友達を信頼する ④友達に感謝する
	力関係意識	①自分なりの遊びのイメージをもつ ②自分なりの遊びの目的や課題をもつ ③自分なりの遊びの楽しみ方がある	力関係意識	共有性 ①遊びのイメージを友達と共有する ②遊びの目的や課題を友達と共有する ③遊びのルールを友達と共有する	力関係意識	①遊びの中で友達と役割を分担する ②もっとおもしろくなるよう工夫する ③問題点に気付いて修正しようとする ④課題達成に向けて繰り返し取り組む
教 師 の 援 助	情緒的支援	①幼児の気持ちを受け止める ②共感的に理解する ③教師の素直な気持ちや感覚を表現する	情緒的支援	①幼児の気持ちを受け止める ②共感的に理解する ③教師の素直な気持ちや感覚を表現する	情緒的支援	①幼児の気持ちを受け止める ②共感的に理解する ③教師の素直な気持ちや感覚を表現する
	道徳的支援	①環境を構成する、教材を提示する ②活動の手助けをする ③危機的状況に介入する	道徳的支援	①環境を構成する、教材を提示する ②活動の手助けをする ③危機的状況に介入する	道徳的支援	①環境を構成する、教材を提示する ②活動の手助けをする ③危機的状況に介入する
	評価的支援	①承認・ほめる ②正誤を伝える ③注意する	評価的支援	①承認・ほめる ②正誤を伝える ③注意する	評価的支援	①承認・ほめる ②正誤を伝える ③注意する
	情報的支援	①遊びや活動等がよりよくなるように提案する ②確認する ③情報を提供する ④見守る	情報的支援	①遊びや活動等がよりよくなるように提案する ②確認する ③情報を提供する ④見守る	情報的支援	①遊びや活動等がよりよくなるように提案する ②確認する ③情報を提供する ④見守る

教師の援助については、「協同性の芽生え」の時期には、教師から安心できる援助を受けることで、かかわり行動が引き出され、協同性が育つことにつながる。「協同性の維持」の時期には、「援助性」や「発展性」を引き出す、「提案」「確認」「提供」が重要であり、どのように対人意識を高めるか、課題意識と力量を高めるかによって、より質の高いかかわり行動が引き出されるかが決まる。そして、このように幼児の育ちの過程に応じて幼児を支える適切な教師の援助により、幼児の協同性が維持され育まると述べている。

これらのことから、協同性の過程を踏まえるために、岡上氏の「協同性の枠組み」（2頁表1）を段階ごとに分け、整理し、「幼児の協同性が育まれる過程と枠組み」を表3のように作成した。

以上の内容を用いて、幼児の協同性の向上を図るために、幼児の育ちの過程を捉え、育ちに応じた援助を行うこととする。

2 研究仮説の設定及び検証の視点と方法

(1) 研究仮説

「幼児の協同性が育まれる過程と枠組み」（表3）を用いて、個々の幼児の協同性の育ちの過程を捉えることができれば、幼児に応じた適切な援助ができ、幼児の協同性の向上を図ることができるであろう。

(2) 検証の視点とその方法

検証の視点と方法については表4に示す。

表4 検証の視点と方法

	検証の視点	検証の方法
1	『協同性の枠組み』確認シート、「幼児の協同性が育まれる過程と枠組み」は抽出児の協同性の育ちの過程を捉えるために有効だったか。	『協同性の枠組み』確認シート、「幼児の協同性が育まれる過程と枠組み」の活用分析
2	『協同性の枠組み』確認シート、「幼児の協同性が育まれる過程と枠組み」を用いると、育ちの過程を踏まえた援助により、抽出児の協同性の向上を図ることができたか。	抽出児の言動（ビデオ記録）による変容分析

3 検証保育の計画と実施

(1) 対象

幼稚園 5歳児 抽出児A児

(2) 期間

平成 28 年 9 月 8 日～9 月 20 日

平成 28 年 12 月 6 日～12 月 14 日

(3) 目的

「『協同性の枠組み』確認シート」(3 頁表 2)、「幼児の協同性が育まれる過程と枠組み」(4 頁表 3)を基に、幼児の育ちの過程を踏まえた援助の工夫を行い、その有効性を探る。

(4) 指導方法の工夫

ア 抽出児の分析と考察方法

- (ア) 「『協同性の枠組み』確認シート」(3 頁表 2)を用いて、5 歳児 26 名の実態把握をする。
 (イ) 協同性の育ちの過程に課題があるA児を抽出児とする(表 5)。

表 5 「協同性の枠組み」確認シート
抽出児A児(三宅作成分)

協同性の枠組み		事前		
か か わ り 行 動	他者への注意・関心	① 一人で遊んでいて周囲の幼児に関心を示さない ② 周囲の幼児の様子をぼんやりと眺める ③ 周囲の幼児の様子を注視する		
	接近行動	① 周囲の幼児と同じことをする ② 周囲の幼児に触れる ③ 周囲の幼児に向けて言葉を発する	●	
	同調・回避行動	① 相手のいいなりになる ② 相手と対立すると、その場から離れる ③ 相手と対立すると、とりあえず謝る	●	
	一方的・対立的行動	① 相手を無視したり、自分を強く主張したりする ② 勝手に遊びに加わったり、抜けたりする ③ 相手に強制して何かやらせる	●	
	対話的行動	① 事実を伝えようとする ② 自分の思いを伝えようとする ③ 相手の話を聞こうとする	●	
	協力的行動	① 交換条件や妥協案を出して課題を解決する ② 相手と一緒に力を合わせて課題を達成する		
	対 人 意 識	他者への欲求・評価	① 他の幼児と仲良くしようとする ② 他の幼児に勝とうとする ③ 他の幼児に認められようとする ④ 他の幼児のよさを認めようとする	●
		気持ちの共有	① ポジティブな気持ち(楽しい、嬉しい等)を共有する ② ネガティブな気持ち(嫌だ、不快等)を共有する ③ 気持ちの揺れ(迷い等)を共有する	●
		援助性	① 友達のことを理解する ② 友達を助けようとする ③ 友達を信頼する ④ 友達に感謝する	●
		課 題 意 識 と 力 量	個別性	① 自分なりの遊びのイメージをもつ ② 自分なりの遊びの目的や課題をもつ ③ 自分なりの遊びの楽しみ方がある
共有性			① 遊びのイメージを友達と共有する ② 遊びの目的や課題を友達と共有する ③ 遊びのルールを友達と共有する	●
発展性	① 遊びの中で友達と役割を分担する ② もっとおもしろくなるよう工夫する ③ 問題点に気付いて修正しようとする ④ 課題達成に向けて繰り返し取り組む		●	

- (ウ) 抽出児A児の実態と、協同性の向上を図るための教師の援助の視点を次のように捉える。

抽出児A児の実態

同調・回避行動②相手と対立すると、その場から離れる

相手に強く言われると自分の主張をできないままであることがある。また、思うようにならないことがあると、遊びをやめて、その場から離れることがある。

他者への欲求・評価①他の幼児と仲良くしようとする

相手の言動は注意深く観察しているが、言葉少なく、意思表示がはっきりしないために、相手との意思疎通が十分でないことがある。

他者への欲求・評価③他の幼児に認められようとする

竹馬や一輪車に取り組むようになる。自信がない様子を見せるが、寄り添う教師や友達が心の支えとなり練習しようとする。

気持ちの共有①ポジティブな気持ちを共有する

友達が困っていると、側によって心配したり、助けようとしたりするなど、相手の感情に気付き、受け止めようとしている。

共有性①遊びのイメージを友達と共有する

関心のある友達の側で同じことをしたり、同じ物を持って一緒に遊ぼうとするが、遊びのイメージを十分に共有できない。

抽出児A児の援助の視点

情緒的支援①幼児の気持ちを受け止める

道具的支援②活動の手助けをする

情動的支援①遊びや活動等がよりよくなるように提案する

- (エ) 検証保育において、抽出児に応じた援助を行う。
 (オ) 検証保育後のカンファレンスにおいて、幼児の言動(ビデオ記録)を基に、「『協同性の枠組み』確認シート」(3 頁表 2)を用いて、抽出児の姿と教師の援助を振り返る。そして、他の教師と、抽出児の姿や教師の援助について分析・考察を行い、教師の援助の方向性を探る。
 (カ) (キ) (ク) (ケ) を 9 月 と 12 月 に実施し、「幼児の協同性が育まれる過程と枠組み」(4 頁表 3)を用いて抽出児の育ちの過程や変容を捉える。

4 保育実践の分析と考察

(1) 「『協同性の枠組み』確認シート」, 「幼児の協同性が育まれる過程と枠組み」は抽出児の協同性の育ちの過程を捉えるために有効だったか。

ア 自身が判断した項目の分析

検証保育では, 「『協同性の枠組み』確認シート」(3頁表2)を用いて, 検証保育で捉えた抽出児A児の姿について判断した。表6で示すように, 実際の姿を通して判断していくと, 幼児の協同性の育ちの過程を総合的に捉えることができた。

次に, 事前に実態把握で判断していた項目と, 保育後に実際の姿を通して判断した項目について比較した。表7の太枠で示す「同調・回避行動」, 「援助性」のように, 前後で判断が違っている

表6 「協同性の枠組み」確認シート
抽出児A児の9月5日間の判断結果 (三宅作成分)

協同性の枠組み		9月																											
		1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目																					
か か わ り 行 動	他者への注意・関心	①一人で遊んでいて周囲の幼児に関心を示さない							②周囲の幼児の様子をぼんやりと眺める							③周囲の幼児の様子を注視する													
	接近行動	①周囲の幼児と同じことをする		●					②周囲の幼児に触れる						●	③周囲の幼児に向けて言葉を発する													
	同調・回避行動	①相手のいいなりになる							②相手と対立すると、その場から離れる							③相手と対立すると、とりあえず謝る													
	一方的・対立的行動	①相手を無視したり、自分を強く主張したりする							②勝手に遊びに加わったり、抜けたりする			●				③相手に強制して何かやらせる													
	対話的行動	①事実を伝えようとする							②自分の思いを伝えようとする			●	●			③相手の話を聞くとする						●							
	協力的行動	①交換条件や妥協案を出して課題を解決する							②相手と一緒に力を合わせて課題を達成する																				
対 人 意 識	他者への欲求・評価	①他の幼児と仲良くしようとする			●	●	●	②他の幼児に勝とうとする						●	③他の幼児に認められようとする	●	●	●	●			④他の幼児のよさを認めようとする							
	気持ちの共有	①ポジティブな気持ち(楽しい、嬉しい等)を共有する	●	●	●	●		②ネガティブな気持ち(嫌だ、不快等)を共有する							③気持ちの揺れ(迷い等)を共有する														
	援助性	①友達のことを理解する							②友達を助けようとする							③友達を信頼する							④友達に感謝する						
	課 題 意 識 と 力 量	個別性	①自分なりの遊びのイメージをもつ			●	●	●	②自分なりの遊びの目的や課題をもつ			●	●	●	③自分なりの遊びの楽しみ方がある	●	●	●	●										
共有性		①遊びのイメージを友達と共有する			●	●		②遊びの目的や課題を友達と共有する			●			③遊びのルールを友達と共有する															
発展性		①遊びの中で友達と役割を分担する							②もっとおもしろくなるよう工夫する							③問題点に気付いて修正しようとする							④課題達成に向けて繰り返し取り組む						

部分があった。

これは, 実態把握の段階では, 抽出児A児は, 相手と対立するとその場から離れてしまう「同調・回避行動」が課題であり, 友達のことに気が付き, 助けようとするところを「援助性」と捉えていたためである。しかし, 実際の場面では, 友達と仲良くしたいが, かかわり方が分からない「他者への欲求・評価」や, 自身の欲求を満たしたい「個別性」が見られることが明らかになり, 協同性の育ちの過程を捉え直すことができた。

検証保育後には, 7頁表8で示すように, 「『協同性の枠組み』確認シート」(3頁表2)で判断した項目を抽出児A児の行った遊びごとに整理した。抽出児A児の協同性の枠組みの表れ方は, 遊びの種類や場面によって異なっていた。

表7 「協同性の枠組み」確認シート
抽出児A児の事前と保育後の判断結果の比較 (三宅作成分)

協同性の枠組み		事前	9月																										
			1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目																				
か か わ り 行 動	他者への注意・関心	①一人で遊んでいて周囲の幼児に関心を示さない							②周囲の幼児の様子をぼんやりと眺める							③周囲の幼児の様子を注視する													
	接近行動	①周囲の幼児と同じことをする	●	●					②周囲の幼児に触れる						●	③周囲の幼児に向けて言葉を発する	●												
	同調・回避行動	①相手のいいなりになる							②相手と対立すると、その場から離れる	●						③相手と対立すると、とりあえず謝る													
	一方的・対立的行動	①相手を無視したり、自分を強く主張したりする							②勝手に遊びに加わったり、抜けたりする	●		●				③相手に強制して何かやらせる													
	対話的行動	①事実を伝えようとする							②自分の思いを伝えようとする	●		●	●			③相手の話を聞くとする						●							
	協力的行動	①交換条件や妥協案を出して課題を解決する							②相手と一緒に力を合わせて課題を達成する																				
対 人 意 識	他者への欲求・評価	①他の幼児と仲良くしようとする	●	●	●	●		②他の幼児に勝とうとする						●	③他の幼児に認められようとする	●	●	●	●			④他の幼児のよさを認めようとする							
	気持ちの共有	①ポジティブな気持ち(楽しい、嬉しい等)を共有する	●	●	●	●		②ネガティブな気持ち(嫌だ、不快等)を共有する							③気持ちの揺れ(迷い等)を共有する														
	援助性	①友達のことを理解する							②友達を助けようとする	●						③友達を信頼する							④友達に感謝する						
	課 題 意 識 と 力 量	個別性	①自分なりの遊びのイメージをもつ	●	●	●	●		②自分なりの遊びの目的や課題をもつ	●	●	●	●		③自分なりの遊びの楽しみ方がある	●	●	●	●										
共有性		①遊びのイメージを友達と共有する	●					②遊びの目的や課題を友達と共有する	●					③遊びのルールを友達と共有する															
発展性		①遊びの中で友達と役割を分担する							②もっとおもしろくなるよう工夫する							③問題点に気付いて修正しようとする							④課題達成に向けて繰り返し取り組む						

実際の姿を通すと判断が違う

かし、判断した項目に基づき、各教師が捉えた幼児の姿について語り合うことは、抽出児を多面的に捉え、指導内容を共有することに効果的であった。

- ・カンファレンスごとに『協同性の枠組み』確認シート（3頁表2）を用いると、担任以外の教師にも抽出児の育ちを捉える視点が定まった。そして、保育場面においても、教師間で共有した視点に考慮した援助ができた。

ウ 抽出児A児の協同性の育ちの過程についての分析

全教師が9月と12月の検証保育において、抽出児A児について判断した項目について、「幼児の協同性が育まれる過程と枠組み」（4頁表3）を用いて整理した。図2で示すように、自身も他の教師も「芽生え」を示す項目が多く、

抽出児A児の育ちの過程は、概ね、この段階を示していると捉えた。

全体を通して見ると、図2で示すように、12月では、「維持（発展期）」と判断する項目が増え、9月から12月にかけての抽出児の変容を捉えることができた。

【考察】

- ・「幼児の協同性が育まれる過程と枠組み」（4頁表3）を用いると、教師は、幼児の育ちの過程を可視化することができ、教師は、幼児の育ちの過程に応じた援助について考えることができた。
- ・「幼児の協同性が育まれる過程と枠組み」（4頁表3）を用いて判断した項目について、保育期間中の結果を比較することで、幼児の変容について可視化することができた。

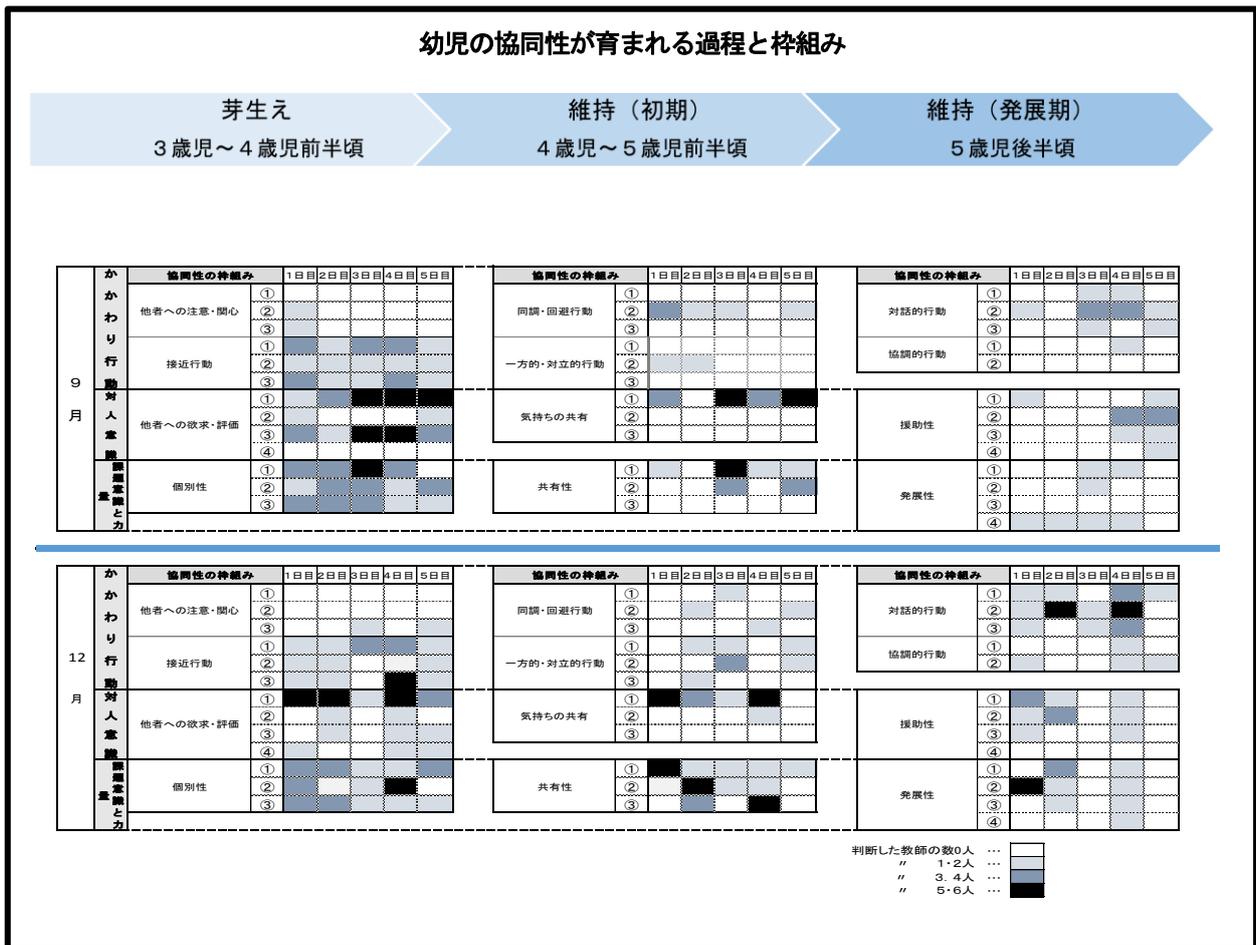


図2 幼児の協同性が育まれる過程と枠組み 9月と12月 抽出児A児（全教師作成分）

ままごと1

抽出児の姿（下線注目した姿）

好きなキャラクターになってままごとコーナーに移動が多くなり、友達のかわりはない。④

製作コーナーで空き箱製作を始める。空き箱とカップをテープで止めている。次にキャラクターに使う首輪を製作する。

製作コーナーから離れ、他の遊びをしている友達の言動を注意する。ままごとに戻らない。⑤



(2) 『協同性の枠組み』シート、「幼児の協同性が育まれる過程と枠組み」を用いると、育ちの過程を踏まえた援助により、抽出児の協同性の向上を図ることができたか。

ア 抽出児の言動（ビデオ記録）による変容の分析

(7) 「ままごと1」について

抽出児A児の変容については、抽出児A児が繰り返し取り組んでいたことから、「ままごと」に着目し、図3のように変容をまとめた。上段は、幼児の姿、中段は、自身の捉えと保育場面で行った援助、下段は、保育後のカンファレンスを通して捉え直した幼児の姿と援助の方向性について述べている。

「ままごと1」では、下線⑤のように、抽出児A児には友達の言動に注意が向くと勝手に遊びに加わったり抜けたりする「一方的・対立的行動②」が見られた。このような姿から、抽出児A児に目的をもたせる援助が必要だと感じ、興味・関心があることを探りながら援助を行ったが、十分な援助ができなかった。

保育後のカンファレンスでは、抽出児A児の様子について、教師Yは、「自分を受け入れてくれる人を探しているように見えた。」、教師Wは、「こうしたいという思いがある時に動き、出入りしていた。」と述べた。これらのことから、下線④を「個別性③」と捉えていたことについては、自分のことを受け入れてくれる友達を求めて遊びに加わったり抜けたりしている「一方的・対立的行動②」に捉え直すことができた。関連して、移動を繰り返していることについては、友達に認められるために、自分の製作物が友達に受け止められることを必要としている「他者への欲求・評価③」と捉え直すことができた。

このように、同じ項目を判断しても、教師によって捉えている背景は違い、そのいろいろな背景を出し合うことで、一人では見えなかったことが見えてきた。そして、抽出児A児の姿を捉え直しながら、今後の援助の方向性について考えていくことができた。

自身の捉えと援助

④ 個別性③

自分なりの楽しみ方はあるが、友達と共有できていない。

⑤ 一方的・対立的行動②

色々な友達の言動が気になり、勝手に遊び加わったり抜けたりしている。

道具的支援①

A児の思いに寄り添いながら、ままごと遊びの準備を手伝う。

見守る

頻繁に移動し、周囲に気が散っている様子なので、目的をもって遊べるように、A児の思いを探る。しかし、A児の思いが分からず、援助は上手いかない。

捉え直し

カンファレンスで捉え直した幼児の姿と援助の方向性

⑤ 一方的・対立的行動②

受け入れてくれる相手を求めているので、遊びに加わったり抜けたりしている。

③ 他者への欲求・評価③

自分の製作物が受け止められることが必要だと感じ移動している。友達に認められようとしている。

③ 情動的支援③

友達がA児に関心を寄せることができるように、A児のよさを周囲の友達に知らせる。

① 情緒的支援①

思っていることを受け止めて、友達への表出を促す。

図3 抽出児A児 「ままごと1」場面の分析

ままごと2

抽出児の姿（太字…変容 下線―注目した姿）

役割の希望を友達に伝える。友達の指定した場所で遊ぶ。しばらくすると遊びを抜けていく。◎	製作コーナーへ移動する。「メガネ」を製作④教師が形の面白さに驚くと、周囲に見せようとする。教師を仲立ちにして友達に見せて回る。	「メガネ」を持ち、ままごとに戻る。役割の変更を友達に伝える◎と受け入れられる。役割のイメージをもって、遊び始める。	教師に自分の役割のイメージを話す。友達と役になりきって話している。キッチンに移動しエプロンをつけようとするが、他の友達に先に取られる。
---	---	---	---



(イ) ままごと2について

図4のように「ままごと2」では、抽出児A児には、友達に関心を寄せるように抽出児A児のよさを周囲に知らせていく「**情動的支援③**」や、抽出児A児の思っていることを受け止めて友達への表出を促す「**情緒的支援①**」という「ままごと1」で得られた援助の方向性を基に、保育を行った。

始めに、抽出児A児は、友達に役割の希望を伝えて遊び始めたが、下線◎のように、しばらくすると抜けてしまった。教師は、自分なりの楽しみ方はあるが、友達とは違うのでその場から離れている「**個別性①**」と判断し、気持ちに寄り沿う「**情緒的支援①**」を行った。しかし、抽出児A児は、ままごとにいる友達に働きかけようとせず、製作コーナーへ移動し、「メガネ」の製作を始めた。この様子については、後のカンファレンスで、友達に認められたいが自信がなく、製作物で認めてもらおうとする「**他者への欲求・評価③**」と捉え直しをした。その後、下線◎のように抽出児A児はイメージをもって製作を始めた。この様子を教師は、「**個別性①**」と捉え、メガネの形の面白さに驚くなどしてかかわった。徐々に抽出児A児は、「遠くも見えるぶんだよ、メガネだよ。」と話し、メガネを友達に見せようとした。教師が仲立ちとなって友達とのやりとりを支えると、抽出児A児はメガネを持ってままごとコーナーに戻り、下線◎のように友達に声をかけ、始めの目的であったままごとに再び参加しようとした。さらに、抽出児A児は、「私ね、人間になった、猫じゃないよ、ピカチュウもやめた。」と役割変更を友達に申し出て、そのことを教師に知らせに来た。抽出児A児は、教師に支えられながら思いが実現でき、相手に受け入れてもらえた嬉しさから、自己表出する自信をもったと思われる。

このように、カンファレンスで捉え直した抽出児A児の姿を基に、育てたい側面を意識した援助を保育場面で心掛けていくことができた。そして、抽出児A児の心の動きや他者とのかかわる姿を通して、必要な援助を判断できたことにより抽出児の意識や行動を引き出すことができた。

自身の捉えと援助

◎ 個別性①②③ 自分なりの楽しみ方はあるが、友達とは違うので、その場から離れている。	① 個別性① イメージをもって製作している。	◎ 気持ちの共有① 有① 友達と共有できたので、嬉しさを感じている。	対話的行動② 自分から思いを伝えようとしている。
情緒的支援① 友達とつながぐために、A児の気持ちに寄り添う。 捉え直し	情緒的支援② 気持ちを探り、相手とのやりとりをつなぐ。	情緒的支援② 友達とイメージを共有できた嬉しさを一緒に共感する。	見守る やり取りを見守り、気持ちが伝わらない時には言葉を添える。

カンファレンスで捉え直した幼児の姿と援助の方向性

他者への欲求・評価③ 友達に認められたいが、自信がない。製作物なら認めてもらえんと思って	気持ちの共有① 友達から製作物を認められて嬉しさから自信を得た。友達に働きかける意欲になっている。	対話的行動②③ 自分の思いを安心して伝えている。相手の話にも関心を寄せている。
評価的支援① A児が自身のよさに気付けるように、A児らしい考えや思いを大切に接していく。	情緒的支援① A児が、友達の中でよさを発揮できるように、気持ちを受け止め、思いや言葉が伝わるように仲立ちとなっていく。	

図4 抽出児A児 「ままごと2」場面の分析



図5 抽出児A児 「ままごと3」「ままごと4」場面の分析

ウ) ままごと3, 4について

(ア) (イ) のような援助の工夫により、11 頁図5の「ままごと3」下線①に示すように、抽出見A児には、自分のしたいことを相手に伝えようとする対話的行動②が見られた。さらに、下線②のように、楽しかった遊びを友達と共有しようとする共有性①が見られた。しかし、共有性については、教師Yは「どうすると遊びが楽しくなるかが分からないのでは。」と話し、友達と気持ちの共有はできているが、一緒に遊びそのものを楽しむことができていると示唆した。このことから、素直に言葉や行動で表し、相手に伝えることを促す情緒的支援③が抽出見A児に応じた援助だと気付いた。

このように抽出見A児の育ちの過程を踏まえた援助を続けていくと、11 頁図5の「ままごと4」では、下線③のように、木の周囲を家の階段に見立てて遊ぼうとする様子があり、自分なりの遊びのイメージをもち楽しもうとする個別性①②③が頻繁に見られた。その姿に教師は、抽出見A児の発想の面白さやイメージに共感し、言葉で伝える情緒的支援②を行った。すると、下線④のように、集めた木の皮を「シチュー」にして、そのイメージを次第に友達と共有していく共有性①②が表れた。さらに教師が、

互いの意図や目的などの確認をし、友達と共有し続けるために、情報的支援②をすると、「(木の枝を) お玉にする。」と自分の思いを伝え、その後も相手の思っていることを聞こうとする対話的行動②③が見られた。他の教師の「ままごと4」の判断は、他者への欲求・評価①、気持ちの共有①、共有性①、発展性②が多く、援助の方向性では、判断できた項目をより育んでいくための援助について考えていった。

また、「ままごと4」では、抽出見A児の発想の面白さやイメージに共感し、言葉にして伝える情緒的支援②、抽出見A児が見付けたものや発想のよさを価値付けたりする評価的支援①のように、保育場面で抽出見A児に適した捉えや援助ができ、そのことで、抽出見A児は友達と一緒に共通の目的を見だし、工夫して遊ぶことができた。

イ 「幼児の協同性が育まれる過程と枠組み」 (4 頁表3) を用いた分析

図6のように、「幼児の協同性が育まれる過程と枠組み」(4 頁表3) を用いて7 頁表9を整理した。抽出見A児は、「ままごと」を重ねるごとに、友達と調和の取れたかかわりをもてるようになり、かかわり行動では、同調・回避行動②、一方的・対立的行動②と入れ替わるよ

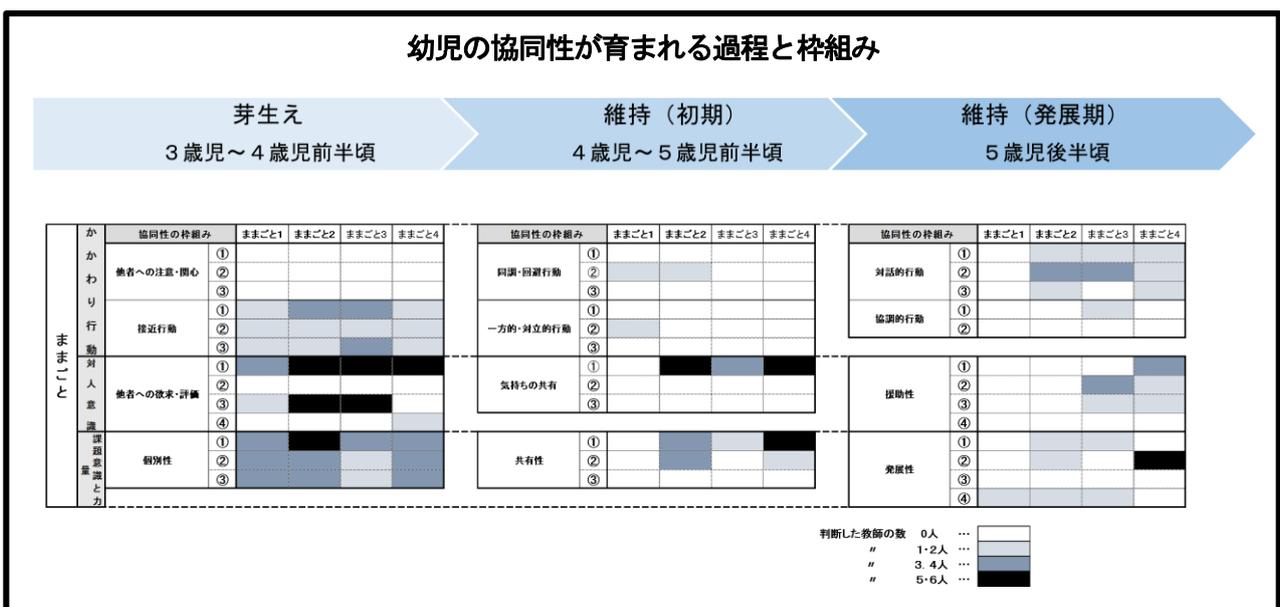


図6 幼児の協同性が育まれる過程と枠組み 抽出見A児 「ままごと」場面 (全教師作成分)

うに、**対話的行動①②③**が表れてきている。そして、課題意識と力量では、発展性の項目が増え、維持（発展期）に向かおうとしていると捉えることができた。

このように、「幼児の協同性が育まれる過程と枠組み」を用いて整理することにより、抽出児A児の協同性の育ちの過程について可視化することができた。

【考察】

- ・ 『協同性の枠組み』確認シート、「幼児の協同性が育まれる過程と枠組み」により、抽出児の経験から、どの段階にあり、どのようなかわり行動や意識が見られるのかという抽出児の協同性の育ちの過程を捉えることができた。そうすると、育ちの過程を踏まえた援助を行うことができた。このように、『協同性の枠組み』確認シート、「幼児の協同性が育まれる過程と枠組み」を活用すると、育ちの過程に沿って協同性を向上させていくことができた。
- ・ 教師が幼児の行動の意図について理解できたことで、抽出児の見方が変わり、実際の保育場面においても、抽出児に応じた適切な援助やタイミングの判断ができた。そして、抽出児の協同性の向上につなげることができた。

V 研究のまとめ

1 成果

(1) 幼児の協同性の向上を図ることについて

これまで自身も自身が幼児を捉える際には、総合的に捉えるように心掛けてきたが、実際は、幼児の課題に注視する傾向があった。しかし、本研究においては、『協同性の枠組み』確認シート（3頁表2）、「幼児の協同性が育まれる過程と枠組み」（4頁表3）を用いたことで、抽出児に対する先入観を外し、どの行動や意識が

育っていないのか、どの段階にあるのかということについて客観的に捉えることができた。そして、抽出児の協同性の向上を図るために必要な経験を重ねていくことで、抽出児の協同性の育ちの過程に変容が見られた。このように、育ちの過程について総合的に捉えることで、協同性が育まれる過程を認識した保育の展開ができ、抽出児の協同性を段階的に向上させていくことができた。

(2) 教師の適切な援助について

本研究のカンファレンスにおいて、『協同性の枠組み』確認シート（3頁表2）、「幼児の協同性が育まれる過程と枠組み」（4頁表3）を用いて保育の振り返りを行うことで、幼児を多面的に捉え、幼児に応じた援助について考え続けることができた。そのことにより、幼児の育ちの過程に応じ、遊びをより楽しんだり、発展したりできるような援助ができた。また、立場や保育経験が異なる教師間においても、それぞれの視点から幼児のことを語り合うことができ、幼児の協同性の育ちの過程を共有することや、育ちに応じた援助の検討ができた。

2 課題

本研究では、抽出児について検証を行い、育ちの過程を総合的に捉えることができた。今後は、『協同性の枠組み』確認シート（3頁表2）、「幼児の協同性が育まれる過程と枠組み」（4頁表3）を抽出児のみならず、他の幼児の協同性を捉えるためにも活用し、汎用性のあるものにしていきたい。

また、本研究の検証保育において、抽出児の育ちの過程を踏まえた教師の援助と、幼児の協同性の向上を図ることは、表裏一体であることを再認識した。『協同性の枠組み』確認シート（3頁表2）、「幼児の協同性が育まれる過程と枠組み」（4頁表3）の教師の援助についても、細かく分かるように改善を図っていきたい。

引用文献

- 1) 文部科学省「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」平成22年，16頁
- 2) 前掲書 1)，22頁
- 3) 文部科学省「幼児教育に関する調査研究拠点の整備に向けて（報告書）」平成28年，4頁
- 4) 国立教育政策研究所教育課程研究センター『幼児期から児童期への教育』ひかりのくに株式会社，平成17年，55頁
- 5) 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館，平成20年，100頁
- 6) 前掲書 1)，101頁
- 7) 岡上直子「幼稚園における協同性を育む指導の在り方」文部科学省『初等教育資料平成26年11月号（No.919）』東洋館出版社，83頁

参考文献

- ① 岡上直子「確かな幼児教育を実践し，伝える『視点』」全国国公立幼稚園・こども園長会『幼児教育じほう2016，4』全国国公立幼稚園・こども園長会事務局「時報部」，平成28年
- ② 岡上直子「幼稚園における協同性を育む指導の在り方」文部科学省『初等教育資料平成26年11月号（No.919）』東洋館出版社
- ③ 鯨岡峻，鯨岡和子『よくわかる保育心理学』ミネルヴァ書房，2004年
- ④ 無藤隆『協同するからだとことば』金子書房，1997年
- ⑤ 無藤隆『幼児教育のデザイン 保育の生態学』東京大学出版会，2013年
- ⑥ 無藤隆，古賀松香『社会情動的スキルを育む「保育内容 人間関係」—乳幼児期から小学校へつなぐ非認知能力とは—』北大路書房，2016年
- ⑦ 文部科学省『指導と評価に生かす記録』チャイルド社，平成25年
- ⑧ 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館，平成20年